

平成31年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

○ 平成31年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)実施校は、全日制課程の32校34学科、定時制課程の1校1学科、特色選抜(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)実施校は、全日制課程の14校17学科であった。

推薦選抜、特色選抜合わせて6,417人(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)が出願し、3,278人が入学許可予定者となった。

○ 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.08倍であった。また、出願変更率は6.3%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

1 出願状況

募集枠	2,239人		
出願者数	2,446人	出願倍率	1.09倍(1.12倍)

()は前年度であり、以下同様。

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数	2,446人		
入学許可予定者数	2,089人	合格率	85.4%(83.5%)

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

1 出願状況

募集枠	1,192人		
出願者数	3,971人	出願倍率	3.33倍(3.40倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数	3,969人		
入学許可予定者数	1,189人	合格率	30.0%(29.4%)

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

1 出願状況

募集枠	164人		
出願者数	132人	出願倍率	0.80倍

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数	132人		
入学許可予定者数	115人	合格率	87.1%

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況

出願者数	7,399人(7,732人)		
確定出願者数	7,328人(7,664人)		
確定出願倍率	全日制 1.09倍(1.11倍)	定時制	0.66倍(0.63倍)
	全・定合わせて1.08倍(1.09倍)		

2 出願変更状況

出願変更者数	467人	このうち	71人は出願辞退者
出願変更率	6.3%(6.4%)		

(1) 学科別出願変更率では音楽学科が83.3%と最も高かった。(前年度は家庭学科の12.3%)

(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 304人 出願変更率 6.7%(5.7%)

3 受検状況

受検者数	7,317人	受検倍率	1.08倍(1.09倍)
全日制	7,142人	1.09倍(1.11倍)	定時制 175人 0.65倍(0.60倍)

4 入学許可予定者

(1) 学力検査による入学許可予定者数 6,547人 合格率89.5%(87.3%)

(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および学科 21校27学科(17校21学科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・学科および募集定員

全日制 16校21学科154人 定時制 5校6学科101人 全・定合わせて 21校27学科255人

2 出願状況 出願者数 121人 出願倍率 0.47倍(0.38倍)

3 受検状況 受検者数 113人 受検倍率 0.44倍(0.38倍)

4 入学許可予定者 入学許可予定者数 87人 合格率 77.0%(82.8%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数 9,912人

2 実入学者数 9,909人

3 定員充足率 98.3%(97.7%)

平成31年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

平成31年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	1
	(1) 推薦選抜、特色選抜の結果	1
	(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	2
	(3) 一般選抜の結果	2
	(4) 入学者選抜の結果	3
2	学科別の受験者数、入学許可予定者数等について	4
3	一般選抜における出願変更者数について	5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	8
2	配点等	8
3	検査成績	8
	【各教科の分析】	
	国 語	9
	数 学	11
	社 会	13
	理 科	15
	英 語	17

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成31年度県立高等学校入学選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日時の課程の32校34科（普通科16、専門学科11、総合学科7）、定時制課程の1校1科（普通科1）であった。特色選抜実施校は、14校17科（普通科14、専門学科3）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月6日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校107校中99校（昨年度107校中99校）、特別支援学校中学部13校中2校（昨年度13校中0校）、県外の中学校は27校（昨年度19校）であった。全日時の出願者数は、普通科で863人（昨年度874人）、農業学科で222人（昨年度258人）、工業学科で328人（昨年度373人）、商業学科で356人（昨年度371人）、家庭学科で90人（昨年度78人）、体育学科で42人（昨年度52人）、美術学科で36人（昨年度41人）、総合学科で496人（昨年度526人）であった。定時制は普通科の13人（昨年度12人）となった。この結果、出願者数合計は、2,446人（昨年度2,585人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日時の普通科では1.05倍（昨年度1.02倍）、専門学科で1.17倍（昨年度1.25倍）、総合学科では1.01倍（昨年度1.04倍）、定時制の普通科は1.30倍（昨年度1.20倍）となり、実施学科全体では1.09倍（昨年度1.12倍）であった。この結果、2,089人が入学許可予定者となり、合格率は85.4%（昨年度83.5%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校107校中102校（昨年度107校中101校）、県外の中学校は15校（昨年度23校）であった。出願者数は、普通科で3,861人（昨年度4,065人）、理数学科で93人（昨年度81人）、音楽学科で17人（昨年度34人）であった。この結果、出願者数合計は3,971人（昨年度4,180人）となり、出願倍率は、普通科では3.41倍（昨年度3.48倍）、専門学科では1.83倍（昨年度1.92倍）となり、実施学科全体では3.33倍（昨年度3.40倍）であった。この結果、1,189人が入学許可予定者となり、合格率は30.0%（昨年度29.4%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,278人が入学許可予定者となり、合格率は51.1%（昨年度50.1%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推薦選抜	普通科	2,840	25~30	834	876	876	1.05	794	90.6	
	専門学科	農業	400	50	200	222	222	1.11	194	87.4
		工業	720	50	360	328	328	0.91	308	93.9
		商業	520	50	260	356	356	1.37	254	71.3
		家庭	80	40	32	90	90	2.81	32	35.6
		体育	40	85	34	42	42	1.24	34	81.0
		美術	40	75	30	36	36	1.20	30	83.3
	小計	1,800		916	1,074	1,074	1.17	852	79.3	
総合学科	1,240	30~40※	489	496	496	1.01	443	89.3		
合計	5,880		2,239	2,446	2,446	1.09	2,089	85.4		
特色選抜	普通科	3,840	25~30	1,132	3,861	3,859	3.41	1,132	29.3	
	専門学科	理数	80	50	40	93	93	2.33	40	43.0
		音楽	40	50	20	17	17	0.85	17	100.0
	小計	120		60	110	110	1.83	57	51.8	
合計	3,960		1,192	3,971	3,969	3.33	1,189	30.0		
総合計	9,840		3,431	6,417	6,415	1.87	3,278	51.1		

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

推薦選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の16校（普通科6校、専門学科7校、総合学科4校 のべ17校）であった。

特色選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の3校（普通科3校）であった。

受検者数132人に対して、入学許可予定者数は115人となり、受検者数に対する合格率は、87.1%となった。

(3) 一般選抜の結果

3月6日に実施した一般選抜は、学力検査定員6,802人に対し、確定出願者数は7,328人であり、確定出願倍率は1.08倍であった。また、受検者数は、7317人であり、受検倍率は1.08倍であった。この結果、6,547人が入学許可予定者となり、合格率は89.5%であった。

3月19日に実施した二次選抜は、二次選抜定員255人に対し、受検者数は113人であった。この結果、87人が入学許可予定者となり、合格率は77.0%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		平成31年度	平成30年度
学力検査	学力検査定員 A	6,802	7,014
	出願者数	7,399	7,732
	確定出願者数 (倍率)	7,328 (1.08)	7,664 (1.09)
	受検者数 B (倍率)	7,317 (1.08)	7,642 (1.09)
	不合格者数	770	967
	入学許可予定者数 C	6,547	6,675
	合格率 C/B (%)	89.5	87.3
二次選抜	二次選抜定員 A-C	255	339
	出願者数	121	128
	受検者数 D (倍率)	113 (0.44)	128 (0.38)
	不合格者数	26	22
	入学許可予定者数 E	87	106
	合格率 E/D (%)	77.0	82.8
入学許可予定者数合計 C+E		6,634	6,781

(4) 入学者選抜の結果

3月13日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,825人であり、その内、推薦選抜による者は1,982人、特色選抜による者は1,181人、スポーツ・文化芸術推薦選抜による者は115人、一般選抜による入学許可予定者数は6,547人であった。また、3月22日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は87人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて9,912人となった。そのうち、全日制では募集定員9,800人に対して入学許可予定者数9,722人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,909人で、募集定員の98.3%（昨年度97.7%）となった。

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	平成31年度			平成30年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				14,171	14,470
募集定員 A		9,800	280	10,080	10,400
推薦選抜入学許可予定者数		1,972	10	1,982	2,053
特色選抜入学許可予定者数		1,181	-	1,181	1,219
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		115	-	115	114
一般選抜入学許可予定者数		6,378	169	6,547	6,675
二次選抜入学許可予定者数		76	11	87	106
総計	入学許可予定者総数	9,722	190	9,912	10,167
	実入学者数 B			9,909	10,164
	定員充足率 B/A (%)			98.3	97.7

※県内中学校卒業予定者数は、平成31年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、音楽学科、美術学科、総合学科の5学科（昨年度4学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合	
募集定員 A		10,080	6,800	400	800	520	80	80	40	40	40	1,280	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,239	834	200	360	260	32	-	34	-	30	489	
	受検者数 B	2,446	876	222	328	356	90	-	42	-	36	496	
	入学許可予定者数 C	2,089	794	194	308	254	32	-	34	-	30	443	
	合格率 C/B(%)	85.4	90.6	87.4	93.9	71.3	35.6	-	81.0	-	83.3	89.3	
特色選抜	募集枠（人数）	1,192	1,132	-	-	-	-	40	-	20	-	-	
	受検者数 D	3,969	3,859	-	-	-	-	93	-	17	-	-	
	入学許可予定者数 E	1,189	1,132	-	-	-	-	40	-	17	-	-	
	合格率 E/D(%)	30.0	29.3	-	-	-	-	43.0	-	100	-	-	
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	6,802	4,874	206	492	266	48	40	6	23	10	837
		確定出願者数	7,328	*4,463	205	463	306	63	**	**	1	**	821
		受検者数 F	7,317	*4,455	205	460	306	63	**	**	1	**	821
		入学許可予定者数 G	6,547	4,771	199	444	266	48	40	6	2	8	763
		合格率 G/F(%)	89.5	***	97.1	96.5	86.9	76.2	***	***	200	***	92.9
	二次選抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	255	103	7	48	-	-	-	-	21	2	74
		出願者数	121	75	7	25	-	-	-	-	1	1	12
		受検者数 H	113	70	7	23	-	-	-	-	1	1	11
		入学許可予定者数 I	87	52	7	15	-	-	-	-	1	1	11
		合格率 I/H(%)	77.0	74.3	100	65.2					100	100	100
総計	入学許可予定者	9,912	6,749	400	767	520	80	80	40	20	39	1217	
	実入学者数 J	9,909	6,748	400	766	520	80	80	40	20	39	1216	
	過不足 J-A	-171	-52	0	-34	0	0	0	0	-20	-1	-64	
	定員充足率(%)	98.3	99.2	100	95.8	100	100	100	100	50.0	97.5	95.0	
前年度定員充足率(%)		97.7	98.1	100	95.5	100	100	100	100	95.0	100	95.3	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	6	112	10
		確定出願者数	577		303		126	
	二次選抜	受検者数 D	577		303		126	
		入学許可予定者数 E	417	40	224	6	112	8

3 一般選抜における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数7,399人に対し、出願変更者数は467人（昨年度495人）、出願変更率は6.3%（昨年度6.4%）となり、確定出願者数は7,328人であった。

各学科別の出願変更率は、音楽学科の83.3%が最も高く（昨年度の最高は家庭学科が12.3%）、次に、家庭学科の7.6%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出願 者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,118	4,542	304	6.7	4,463	271	5.7
農業		206	195	8	4.1	205	28	11.7
工業		492	457	30	6.6	463	28	6.5
商業		266	298	15	5.0	306	26	8.9
家庭		48	66	5	7.6	63	9	12.3
音楽		23	6	5	83.3	1	2	10.0
総合		837	840	45	5.4	821	53	6.1
学校 出願	普通・理数	460	567	28	4.9	577	28	5.1
	普通・体育	230	308	19	6.2	303	43	10.9
	普通・美術	122	120	8	6.7	126	7	5.4
合計		6,802	7,399	467	6.3	7,328	495	6.4

* 普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全日制の課程では、愛知高等学校、湖南農業高等学校、甲南高等学校、八日市南高等学校の4校8科、定時制の課程では、大津清陵高等学校の夜間の1校1科であった。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校（音楽科）、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の3校3科であった。

なお、作文については実施校はなかった。

II 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し8人（昨年17人）が入学許可予定者となり、0.20倍（昨年度0.43倍）の倍率となった。二次選抜では、出願者がなく、合計8人（昨年度18人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では156人の出願者（昨年度133人）に対して、156人（昨年度133人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、38人（昨年度31人）が入学許可予定者となり、合計194人（昨年度164人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員、志願者数、入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計		
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員と の差 F-A	
平成31年度	単位制	転編入	40	8	8	0.20	0	—	8	-32	
		通信制	320	156	156	0.49	0	38	38	194	-126
平成30年度	単位制	転編入	40	17	17	0.43	0	1	1	18	-22
		通信制	320	133	133	0.42	0	31	31	164	-156

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や記述式の解答を多くするなどの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は国語59.6点、数学38.1点、社会42.4点、理科39.0点、英語45.0点であった。

平成31年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「問いの数、難易度においても幅広い学力層の中学生の力をみることのできるものであった。」「問題文が読みやすいものだった。」「複数の資料を比較、関連づけて読む力を求める問題であった。」「漢字の読み書き、表現、古文など基本的な力をみることができよかった。」という意見が主なものであった。

設問については、「対比的なとらえ方ができるかどうかを図ることができるよう工夫されていた。」「自分の体験を踏まえて、本文に応じた具体例を考えさせることのできる問題であった。」「作文について、条件がきちんと示されており、書くべきことがわかりやすかった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体をとおして、漢字や語句の使い方に関する基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題や、文章を読み、内容を的確にとらえる問題などは正答率が高かった。一方、文脈の中における語句の意味を的確にとらえて、目的や必要に応じて要旨をまとめる問題や、文章を適切に引用し、自分自身に結び付けて考えたことをまとめる問題は正答率が低かった。それぞれの語句の一般的な意味を踏まえ、思考力や判断力を働かせて、文脈の中における、具体的、個別的な意味をとらえる力を養い、それをもとに、目的に応じて必要な情報を読み取り、的確にまとめる力を身に付けることが求められる。また、読み取った内容から、主体的に読みを深め、自分の意見をまとめ、表現していく学習活動を重視し、生徒の論理的思考力、判断力、表現力を育む言語活動へと発展させていくことが望まれる。

㊦は、鳥のからだのつくりと飛行機の構造について、それぞれ書かれた文章を素材にして、二つの文章を比較し、文脈の中における語句の効果的な使い方を読み取る力、語句の意味や文章の要旨を的確にとらえ、適切にまとめる力をみる問題であった。二つの文章を比較して内容をとらえる問題については正答率が高かったが、文脈における語句の効果的な使い方を読み取る記述問題や、必要な情報を読み取り、考えをまとめる記述問題についてはともに正答率が低かった。文脈の中における語句の意味を的確にとらえてまとめる力の育成が求められる。

㊧は、言葉の意味を探究することの大切さについて考察した文章を素材にして、文脈の中における語句の意味を的確にとらえる力、例示や描写の効果を理解する力、文章を読んで自分の考えをもち、根拠を明確にして適切に表現する力をみる問題であった。中学生が授業でまとめた「ノートの一部」を資料として提示したが、条件に応じて適切にまとめる力をみる問題については、正答率が低かった。問いに対して的確に文章を読み取り、まとめる力の育成が求められる。文章を読んで自分の考えを表現する力については、文章の内容と自分を結び付けて考えるための学習活動を充実させ、語彙を豊かにして表現する力を身に付けることが求められる。

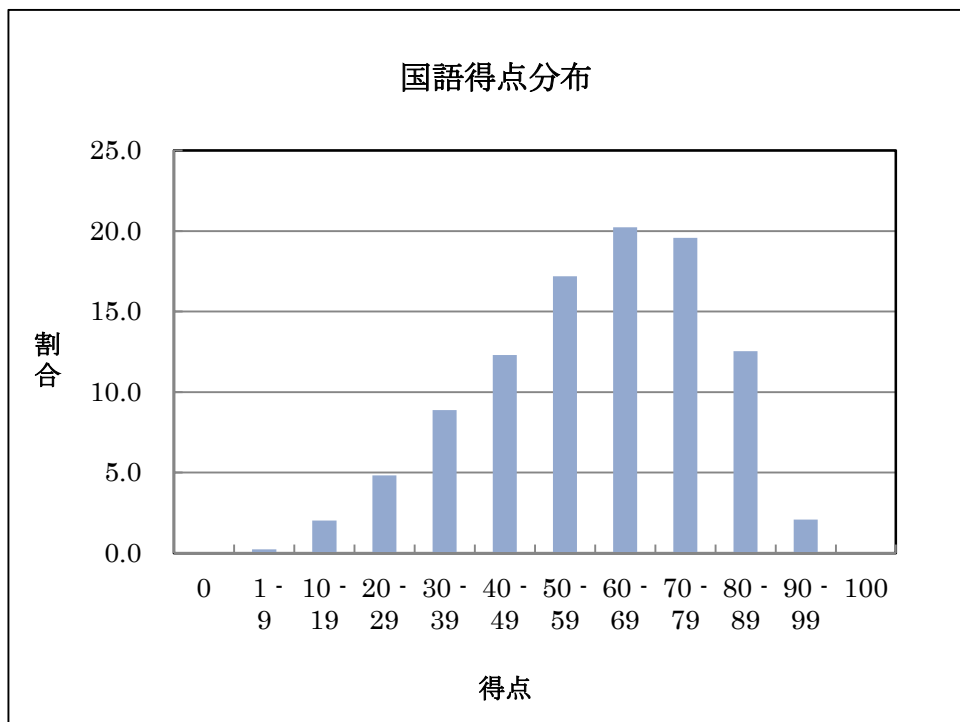
㊨は、漢字の問題や語句の意味を理解し、適切に使う力をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的事項については身に付いていると考えられる。一方、古典の作品の分類を適切に選ぶ問題については、正答率は低かった。様々な種類の作品に触れる活動をとおして、自分の経験をふまえながら、現代と古典の世界を結び付けて理解を深めていく学習活動が求められる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	62.4
	2	10.6
	3	82.8
	4	51.4
	5	6.7
㊧	1	71.4
	2	8.7
	3	69.6
	4	20.1
	5	26.9

問題区分		正答率 (%)	
㊨	1	①	93.6
		②	61.6
		③	70.0
		④	59.8
		⑤	36.0
㊩	2	①	85.5
		②	98.5
		③	97.9
		④	96.7
		⑤	95.3
3	①	98.6	
	②	98.0	
4	①	79.0	
	②	62.7	
	③	66.1	

年 度	平均点	標準偏差
平 31(100 点満点)	59.6	18.7



平成31年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「基本的な計算力や図形に関する知識を問う問題から、応用的な力を問う問題まで幅広く出題されていた。」「日常生活に即した事柄について、複数の領域にまたがって考察・処理・表現することができるかを問う内容となっている。」「考えさせようとする意図は伝わったが、全体としては問題量が多くじっくり考えさせる時間が不足していたように感じる。」などといった意見があった。

設問については、「**1**は基本的、基礎的な計算力を計れる問題であった。」「**2**は、データを分析させるために身近な題材を使う問題であった。」「**3**は、問題の設定が身近にあり、数学の日常への活用能力を問う問題であった。」「**4**は、図形の性質を見だし、筋道を立てて説明する力を問う問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。一方、変数が複数ある問題や、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題で正答率が低かった。具体的な値から数量の関係や法則を考察し数学的な表現を用いて説明していく力や、基本的な図形の性質を利用し複雑な図形の中に隠れた性質を見だし数学的に処理する力が十分身につけておらず、今後は、課題を解決する学習において論理的に考察したり、数学的な表現を用いて理由を説明したりする活動を取り入れながら、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

1は、数と式の計算、2次方程式に関する問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。与えられた条件を数学的に理解し、複数の段階を経ないと正答できない確率や作図の問題では、正答率が低かった。問題で問われていることを数学的に読み取り、見通しをもって処理する力の育成が望まれる。

2は、標本調査の意味を理解し母集団の傾向をとらえる力や、ヒストグラムから資料の傾向を比較し読み取る力をみる内容であった。統計に関する基礎的な知識を問う問題については、正答率が高く、よく理解できていた。一方、多くの情報から必要な情報を取り出し、数学的な表現を用いて説明していく問題の正答率が低かった。与えられた情報を正確に読み取って適切な手法を用いて分析し数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

3は、床を転がるコップの動きから関数関係を見だし数学的に表現・処理する力をみる内容であった。与えられた情報から、コップの線分の長さと同軸数の関係を式で表す問題については、正答率が低かった。問題文から与えられた情報を正確に読み取って、数理的に考察し表現する力の育成が望まれる。

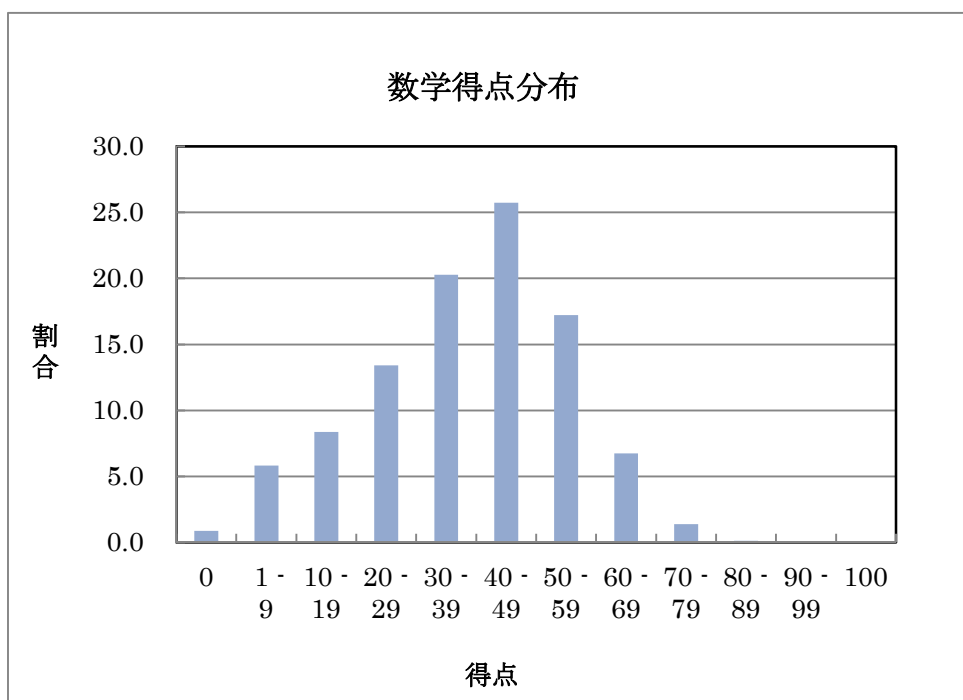
4は、正三角形、正方形、正六角形を重ねてできた図形をもとに、数学的に表現・処理する内容であった。2つの線分の交点が他の線分の midpoint となる理由について、平行線の性質を用いて証明する問題や、正六角形に大きさの違う2つの正三角形を重ねてできた図形の面積を平面図形の性質を用いて求める問題については、正答率が低かった。図形に関する基礎的・基本的な知識を身につけているだけでなく、それを活用して粘り強く考察し数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)	
①	(1)	84.5	
	(2)	73.5	
	(3)	80.8	
	(4)	78.8	
	(5)	71.4	
	(6)	61.4	
	(7)	24.5	
	(8)	33.0	
	(9)	①	55.0
②		3.8	
②	(1)	81.6	
	(2)	53.1	
	(3)	8.5	
	(4)	①	49.0
		②	25.4

問題区分		正答率 (%)	
③	(1)	15.8	
	(2)	29.3	
		15.3	
(3)	0.2		
④	(1)	23.3	
	(2)	①	1.1
		②	6.5
		③	0.7

年 度	平均点	標準偏差
平 31 (100 点満点)	38.1	16.6



平成31年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の三分野より、バランスよく出題されており、表やグラフ、地形図等の使い方も受検生にとって無理がなく、3年間の学習の成果を問うた問題であった。」「今回はどの論述問題も、基礎知識を持っていることを前提として、資料の読み取りを求めるものであった。受検生の学力を把握できる問題であった。」などの意見があった。

設問については、「新学習指導要領の歴史総合を意識して、古代から近代までの日本と世界のつながりをバランスよく問う問題であった。」「地形図を用いた問題は、しっかりと地図というものを把握していないと解答できないため、理解力を測る問題であった。」「消費税については、時事的な問題でもあり、受検生も確認していただろうと予想され、手応えのある問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身につけていないと考えられる。図表やグラフから必要な情報を正確に読み取り情報の取捨選択する力や、読み取った情報と蓄積した知識から判断し表現する力が不足していると思われる。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を身につけたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育成する指導が望まれる。

①は、略年表や写真などの資料をもとに、古代から近代の文化の特色や諸外国との関係を概観する題材となっている。基礎的・基本的な知識や技能をみるとともに、多面的・多角的に考察する力や、適切に表現する力をみる問題であった。資料から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせて、適切な文章で答える問題で正答率が低かった。知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

②は、松尾芭蕉の紀行文を素材に、日本の地域の特徴へと広げる問題であった。読図や農業、さらに地域の歴史的な背景について基礎的・基本的な知識や技能をみるとともに、東北、関東、中部地方の産業が気候と結びついていることについて、考察し適切に表現する力をみる問題であった。様々な資料から地理的事象をとらえ、論理的に考察し表現する問題の正答率が低く、資料から適切な情報を取り出して、文章にまとめる力を育成する必要がある。

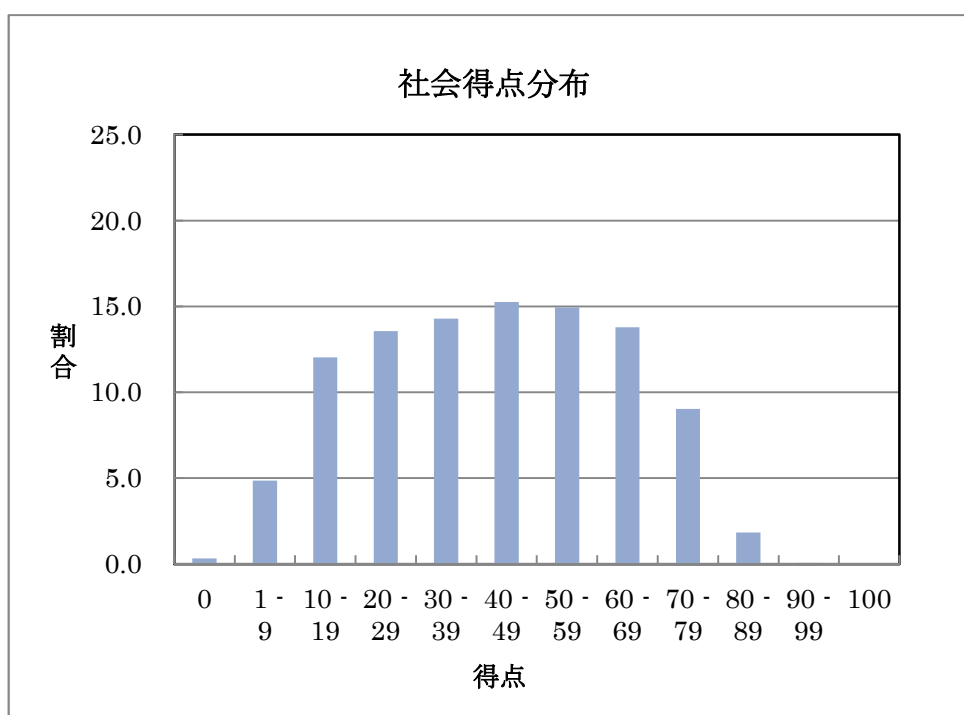
③は、少子高齢社会における租税の意義や役割、社会保障の仕組みや考え方について、基礎的・基本的な知識をみるとともに、税の特徴について適切に表現する力をみる問題であった。基本的な知識をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。今後も日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育てていく必要がある。

社 会

問題区分		正 答 率 (%)		
①	1	(1)	35.2	
		(2)	14.5	
		(3)	45.8	
	2	(1)	30.9	
		(2)	41.0	
		(3)	5.4	
		(4)	7.9	
②	1	(1) 記号	51.8	
		(1) 名前	50.9	
		(2)	19.7	
	2	(1)	27.4	
		(2)	ア	66.3
			イ	42.0
		(3)	48.1	

問題区分		正 答 率 (%)		
②	3		33.0	
	4		22.5	
	5	(1)	39.9	
		(2)	5.7	
	③	1		80.1
2		68.8		
3		4.2		
4		34.2		
5		(1)	a	60.3
			b	42.3
			c	42.9
		(2)		68.0
		(3)		20.4

年 度	平均点	標準偏差
平 31 (100 点満点)	42.4	20.9



平成31年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやたらしきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「観察、実験を中心に、知識だけでなく思考力や正しく表現する力を試す問題が多い。」「基本的な知識・技能を活かして考察する問題であった。」「科学的に探究する際に求められる視点が盛り込まれた問題であった。」などの意見があった。

設問については、「基本的な知識や実験結果の考察力、計算などバランスがとれた問題である。」「グラフの横軸、縦軸の目盛りを書かせることは、理解力を測るのに効果的だと思われた。」「各分野を関連づける必要がある問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な事項を問う問題については正答率が高く、基本的な知識は定着していると考えられる。一方、実験や観察の結果を分析し、その事物・現象について科学的に考察・説明することを求める問題で正答率が低かった。基本的な概念の理解を深め、科学的に考察・活用する態度を育成する必要がある。また複数の要因が関係する現象を説明する問題については、正しく説明ができておらず、正答率が低かった。事物・現象について正しく論理的に、簡潔に表現できるようにするためには、形成的な評価を行う必要がある。また、事物・現象を科学的に表現する問題の正答率が低かった。身のまわりの事物・現象に興味や疑問をもち、目的意識をもって主体的に観察や実験を行い、その結果を自ら考察して、表現することが大切である。

①は、生態系、食物連鎖についての知識をみる問題、適切な実験方法であるかを判断する力をみる問題であった。食物連鎖や生態系についての基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。一方、琵琶湖の微生物のはたらしきについて考察する問題では、理由や説明を求める問題について正答率が低かった。対照実験など、実験方法の意味を正しく理解する力の育成が望まれる。

②は、水中の物体にはどのような力がどの程度の大きさで働くのか、表やグラフから考察する力をみる問題であった。物体の密度を求める問題については、正答率が高かった。一方、「物体にはたらく浮力の大きさは、物体の水中にある部分の体積に比例する」ことを示すために、適切なグラフをかく力をみる問題については、正答率が低かった。グラフの縦軸と横軸のスケールを適切に設定するなど、グラフを書く学習活動を増やすことが望まれる。

③は、大気中の水蒸気量について、実験や自然現象から考察する力をみる問題であった。前線の名称や、発生する雲の形など、知識の定着をみる問題については、正答率が高かった。一方、実験で簡易真空容器を用いた理由、三角フラスコの中が白くくもった理由を問う問題については、正答率が低かった。実験の条件や実験の操作手順について深く考察する力の育成が望まれる。また白くくもった理由に「水が水蒸気になったため」という誤答が多かった。水蒸気などの科学的な概念を正しく理解し、適切に使用する力の育成が望まれる。

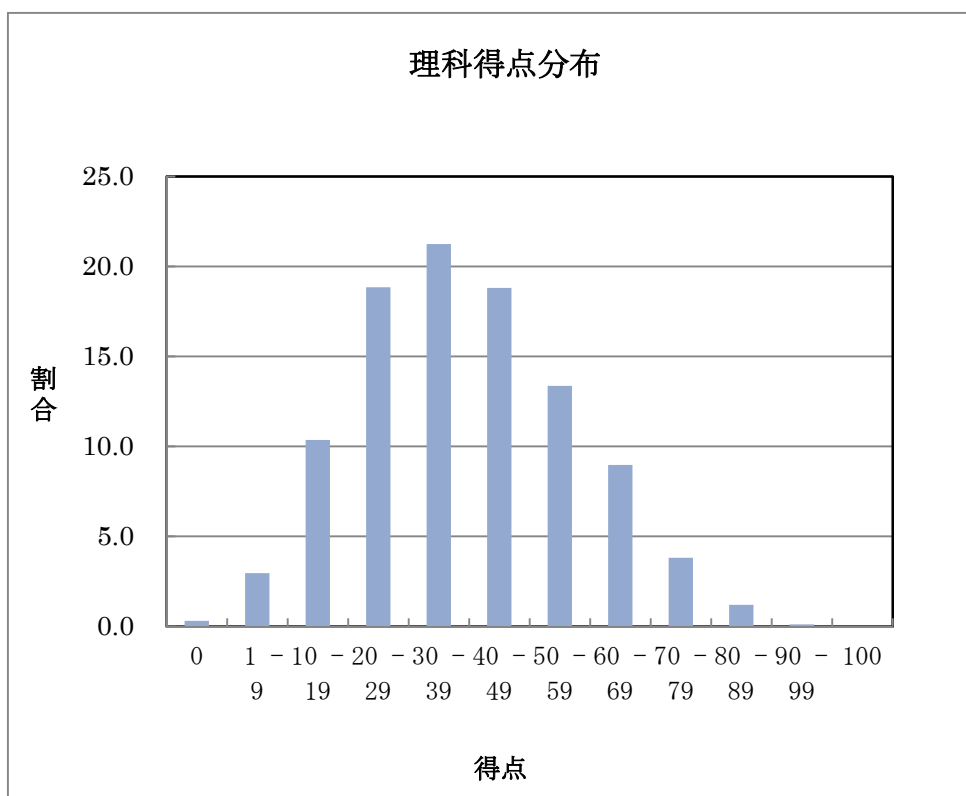
④は、化学反応における法則についての知識・理解の程度をみる問題、化学反応の量的関係を活用する力をみる問題であった。マグネシウムの酸化物の名称と、化学式を問う問題、ならびに質量保存の法則の名称、マグネシウムイオンの表記について問う問題については、正答率が高かった。一方、質量保存の法則がなぜ成り立つのか、原子の性質にふれて説明する問題については、正答率が低かった。科学的な知識を覚えるだけでなく、なぜ成り立つのかを深く考察する態度の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率 (%)
①	1	84.2
	2	60.5
	3	9.9
	4	17.7
	5	59.4
②	1	36.4
	2	13.5
	3	12.8
	4	11.4
	5	10.1

問題区分		正答率 (%)	
③	1	23.0	
	2	6.5	
	3	前線の名称	58.2
		発生しやすい雲	71.5
	4	24.3	
5	47.9		
④	1	物質名	77.9
		化学式	41.2
	2	法則名	79.5
		式	17.9
	3	56.2	
	4	13.2	
	5	14.5	

年 度	平均点	標準偏差
平31 (100点満点)	39.0	17.0



平成31年度 英語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学生にとって身近な場面を設定し、イラストやグラフなどを活用しながら、会話や英文を理解する力と知っている表現で自分の考えを表現する力を見る問題であった。」「中学校の学習内容からバランス良く出題され、実際のコミュニケーションで活用できる能力の育成を重視している問題であった。」などの意見があった。

設問については、「ちらしなど様々な情報を活用し、実際に用いられる言語表現に触れさせようとする意図がわかる問いであった。」「会話の流れや文脈を正確に読み取り表現する問題や、自分の考えや体験を表現する問題など、表現力を問う問題が増えていて、コミュニケーション能力の育成に重点が置かれていた。」などの意見があった。

リスニングについては、「実際の英語使用場面を想定した問題であった。」「内容を理解した上で表現する力を問うものが含まれていてよかった。」「情報量、分量がやや多かったと思われる。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の伝えたいことを理解する力や、身近な話題についての英文を読んで大まかな内容や必要な情報をつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。正答率が低いのは、場面や状況に応じて考えや意見を適切に表現する問題であった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解するとともに、コミュニケーション活動をとおして自分なりの感想や意見などを表現する力をより一層充実させることが望まれる。

①は、聞き取り問題で、絵を見て答えを選ぶ問題や身近な話題の会話を聞いて情報を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、自分の立場で考えを表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英語を聞き、その内容について話し合ったりするような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、「エコツアーと世界の飲用水」についてのちらしやグラフを素材にして、情報を正確に読み取ったり、本文の流れに合わせて適切に表現したりする力などをみる問題であった。大まかな情報を読み取る問題や会話の流れにあう適切な語句を選ぶ問題では、比較的高い正答率であったが、会話の流れに即して基本的な語彙を用いて表現する問題では正答率が低かった。日ごろから、資料などから情報を読み取り、自分の感想などを述べ合い、適切に表現する活動をより計画的に行うことが望まれる。

③は、中学生の「ピワイチ」に挑戦し、難しいことにも取り組むことの大切さについての発表を素材にして、発表者の伝えたい内容を読み取る力、自分の考えを適切に表現する力などをみる問題であった。発表の内容の大まかな理解を問う問題では正答率が高かったが、発表の流れを理解し、英文で表現する問題や、自分の体験を表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容について意見を述べ合ったり、感想などを示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

④は、英語の先生が授業で問いかけた「友人が来日するのに最も適した季節」について、自分の考えやその理由を表現する力を見る問題であった。正答率は低く、日ごろから、自分の考えを学習した表現を用いて述べ合ったりする活動を一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分			正答率 (%)	
①	その1	1	66.4	
		2	76.3	
		3	61.7	
		4	40.6	
	その2	85.2		
	その3	54.8		
	その4	1	78.6	
		2	75.0	
		3	27.9	
	②	1		71.5
2		(1)	77.7	
		(2)	②	31.0
			③	7.5
3		(1)	37.8	
		(2)	15.3	
		(3)	18.3	

問題区分			正答率 (%)
③	1	(1)	61.8
		(2)	18.0
		(3)	6.0
	2	34.5	
	3	45.8	
	4	42.6	
	5	16.1	
6	62.7		
	58.2		
7	2.7		
④	6.9		

年 度	平均点	標準偏差
平 31 (100 点満点)	45.0	26.6

